



# 想いを言葉に!

## そこから広がる想いの連鎖



ゲストの  
松村正子さん

東日本大震災後、多賀城にUターンし「タガの柵」をオープンするまでのいきさつや取り組み、そこから学んだことをお話いただきました。

「地域で何かしたい」「自分の特技を活かしたい」想いを言葉にして整理し、一歩踏み出す・動きはじめるきっかけづくりを行う「TAGAJO Future Labo 3rd season」。今年度は、昨年7月から12月にかけて6回の講座を開催。幅広い年代の受講生が、ゲストのトークやワークショップを通して想いや取り組みたいことをふくらませました。



受講生の発表に、多くの参加者のみなさんが耳を傾けました。

### 発表テーマ

- ✓ 清水沢東子どもカフェ
- ✓ 被災地空き地活用プロジェクト
- ✓ まちづくりの現場から
- ✓ 共生社会の具現化
- ✓ 健康活動カフェ

1月20日(土)の「マイアプローチ発表会」では、受講生それぞれがこれまで考えてきた想いやプランを「Future Labo」OBも含めた市民のみなさんの前で発表。「発表に刺激を受けました」「自分はこんなことを考えている、やってみたい」などの感想が聞かれました。



TAGAJO Future Labo は、来年度も開催します。詳しいことが決まり次第、お知らせしますのでお待ちください!

たがさぽ Press もチェック!  
「マイアプローチ発表会」を開催しました! 2018年1月29日(月)掲載



プログラマアドバイザーの阿部結悟さん  
(一般社団法人ふらっと〜ほく代表理事)

半年間を振り返りつつ、受講生の新たな気づきにつながるコメントをいただきました。



後半には参加者が小グループに分かれて感想と、自分がしたい・できる「次の一歩」を考え、発表しあいました。話し足りない方も多かったようで、その後の交流会も話に花が咲きました。

### ヒント from “たがさぽ Press”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● 自分にあったボランティアを見つけよう! 2017年12月12日(火)掲載  
『ボランティアをしたい!』と思っているけど、どこで探せばいいの?』と  
思っている方へ、ボランティア情報が掲載されている Web サイトをご紹介します。

● 「関係人口」って知っていますか? 2017年12月21日(木)掲載  
宮城県山元町では「やまもと関係案内所マチビト」を立ち上げ、「観光以上、  
定住未満」とも言われる「関係人口」を地域づくりに活用しています。

● ChangeRecipe (チェンジレシピ) とは 2017年12月26日(火)掲載  
法人運営の適切な方法や使える制度、社会資源の使い方を解説するサイト  
「ChangeRecipe」。NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会が運営しています。

### “たがさぽ Press”とは?

たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽ Press へ! \*ケータイ、スマホからもご覧いただけます。



### たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

## 脱! 仕事人間! “NPO きっかけ塾”

あなたの「好き」を「やりがい」に!

職場と家の往復だけの毎日ではもったいない! 今回の講座では、仕事をしながら地域活動にも取り組んでいるゲストをお迎えし、仕事以外の場で無理せず気軽に自分の「好き」や「得意」の活かし方を考えます。20~50代の現役世代で、「仕事以外でも活躍の機会をつくりたい」「もっと人生のやりがいを感じたい」、そんな想いをお持ちの方、ぜひご参加ください。

日時	2018年3月8日(木) 午後7時~午後9時
会場	多賀城市市民活動サポートセンター
参加費	無料
定員	15名(先着順/要事前申込み)
申込み	多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて
問合せ	022-368-7745 (多賀城市市民活動サポートセンター)



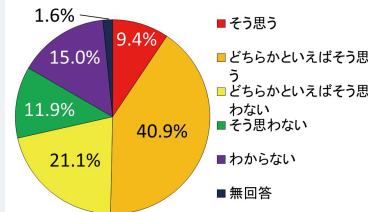
# 暮らしの中の支え合いを見つけよう!

近年、近所付き合いが少なくなるなど住民同士のつながりが薄くなってきていると言われています。そこで多賀城市では、何気なく行っている地域の活動から「自然な支え合い」を発見する取り組みを行っています。

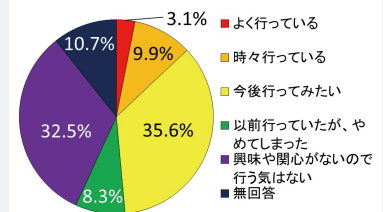
## 「地域の支え合い」を広げるには?

平成28年度の高賀城市「まちづくりアンケート」からは、地域で支えあいの活動をしていない方が多いという現状が読み取れます(右のグラフ参照)。介護保険などさまざまな社会保障制度の活用はもちろん大事ですが、それだけではなく、地域で自然に支え合うことが実は大切なのではないかと。この考えのもと、市役所職員、行政と地域住民のつなぎ役である「生活支援コーディネーター」や町内会の役員、たがさぼスタッフなどで実行委員会をつくり、住民同士の支え合い活動を広める必要性について話し合ってきました。

あなたは、地域において、互いに助けあい支えあいができていると思いますか



あなたは、この1年間に、地域の福祉活動(手助けしたり助けあう取り組み)などを行ったことがありますか



多賀城市「まちづくりアンケート」(2017年2月実施、回答:1,624名)より

## 市民が探す「支え合いの『お宝』」

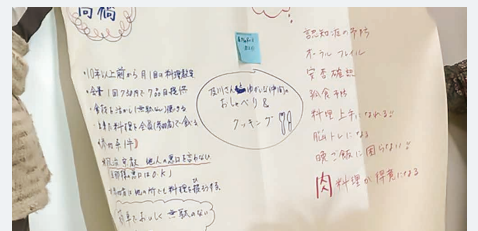
実行委員会では昨年、市民を対象とした「地域の支え合い実践塾」を2回開催。自然な支え合いの活動を「お宝」と称し、その「お宝」を探すワークショップを行いました。まず、地域ごとに身近で行われている活動を出し合いました。近所のお店の前で立ち話をする、毎月定期的に集会所でお茶飲み会を開く、季節の野菜を近所の一人暮らしの方におすそわけする、グラウンドゴルフなどのサークル活動など、次々と出てきました。その次に、それぞれの活動にどんな意味があるかを考えていきました。行っていることは「立ち話」「お茶飲み」ですが、それが「安否確認」や「情報交換」「見守り」、サークル活動は「介護予防」などにつながっていて、「お宝」なのだ気づくことができました。終了後、参加者からは「日常生活の中から支え合いにつながる活動を見つけられてよかった」という感想が多く出ました。また、支え合いというと高齢者が対象になりがちですが、「これからの社会を担う若い人たちにも、他人事でないと思ってもらいたい」という声もありました。



講師を務めた「ご近所福祉クリエイター」酒井保さんによる楽しい講話の様子。



ふだんの身近な活動が、どんどんと地域の「お宝」に!



「お宝」をひとつ選んで、どのような支え合いになっているか意味づけをして発表しました。

## 「自然な支え合い」へ

「支え合い」というと、定期的で開催している名前のついた「サロン活動」「見守り活動」が最初に思い浮かびます。しかし、日常生活の何気ない活動の中にも、実は見守りや介護予防などにつながっているものも多くあります。住民同士の支え合い活動は、隣近所のこと「気になる」ことから始まります。市民それぞれの何気ない日常から発見された「お宝」をさらに磨き、お互いに知ることで地域のつながりができ、暮らしやすいまちになっていきます。

## みんなで考えよう! 多賀城の地域づくり



第1部(午前10時~午後0時30分): 2回の実践塾で発掘された150以上の「お宝」の中から選りすぐりの「お宝」をご紹介します。

第2部(午後1時30分~午後3時): 自治会・町内会の調査をもとに、「もっと暮らしやすいまちにするには」をテーマに情報交換会を行います。

日程 3月14日(水) 会場 多賀城市市民会館 小ホール(多賀城市文化センター内)